

天神町銀座商店街（山口県防府市）

1. 取り組みの概要

日本三大天満宮の一つとされる防府天満宮への道筋にある天神町銀座商店街は、中心市街地の空洞化と住民の高齢化が進んだことを契機に、平成 17 年頃に「やさしい街づくり」を目指すこととし、平成 19 年 4 月、2 階建ての空き店舗を活用して「ヘスティア華城」（小規模多機能型居宅介護・有料老人ホーム、学童保育）をオープンさせた。また、平成 21 年 4 月には、防府市が同商店街に「防府東地域包括支援センター」をオープンさせるなど、地域が一体となって「やさしい街づくり」を推進している。

2. 商店街概要

商店街名	天神町銀座商店街
所在地	山口県防府市天神 6-11
組合員（会員）数	40 人
URL	—

商店街の位置



商店街の様子



(出所) 天神町銀座商店街振興組合ホームページ。

3. 取り組みに至る経緯・背景

同商店街では、中心市街地の空洞化と住民の高齢化が進んだことを契機に、生き残りの道を探ろうとしていた平成 17 年頃に、商店街の性格づけについて、「やさしい街づくり」を目指す方向を見出した。本来、若いも若きも混在するのが商店街であるが、同商店街のある松崎地区の高齢化率は平成 22 年 11 月末現在で 27.7%と高く、経営者の高齢化も進み、切実な時期にきていた。また、商店街の客層は固定的で、お得意様相手の商売をすることで満足するといった意識を持つ経営者が殆どであり、「やさしい街づくり」を目指すことに対しては抵抗感がなかった。

一方、社会福祉法人華世会では、米国で介護の勉強をし、介護は郊外ではなく人と接する機会の多い街なかで行うべきであると考え、街なかで介護適地を探していた。その際、「やさしい街づくり」を進めようとしていた同商店街の理事長と出会い、開設に向けての活動が始まった。

4. 取り組み内容

(1) 「ヘスティア華城（はなぎ）」のオープン

平成 19 年 4 月、2 階建ての空き店舗を活用して「ヘスティア華城」はオープンした。同施設は、小規模多機能型居宅介護・有料老人ホーム、学童保育の機能を持ち、高齢者が住み慣れた地域や環境の中で、普通に暮らしていけるように、「通い」「訪問」「泊り」を組み合わせたサービスを提供している。

小規模多機能型居住介護の定員はデイサービス 15 人、ショートステイ 9 人、有料老人ホームの定員は 6 人となっている。利用を希望する者は、事前に登録し毎月決まった料金を支払うことによってサービスを利用できる。また、通常のサービスが利用回数や時間ごとに料金がかかるのと異なり、自己負担を気にせず必要なときに必要なサービスを受けることができるように配慮されている。しかも、地域に根ざした小規模な施設のため、サービスを利用するときに 24 時間 365 日同じスタッフが対応するため、連続性のあるケアを利用できる利点もある。

学童保育は、小学校 1 年生から 6 年生まで受け入れており、学校が終わり帰宅しても親が帰宅していない子供にとって利便性の高い施設となっており、「ヘスティア華城」は高齢化のみではなく少子化にも対応した施設となっている。預かる時間は、月曜から土曜、夜 6 時まで、利用料金は 1 時間 300 円となっており、必要に応じて昼食の準備もできるようになっている。

同商店街の理事長は、商店街が地域に果たす役割はモノを売るだけではなく、様々なサービスを通じて情報発信して新しいコミュニティをつくる必要があると考えており、そのためには商店街は、元気であることが大事で街の賑わいに寄与することが大事と考えている。自慢できるような街づくりをすることによって地域が活性化する。ただし、「売れる」ことが基本であることは間違いなく、組合は情報発信して人を集める仕組みをつくってい

る。「ヘスティア華城」は、そうした意味で、商店街の活性化に多いに貢献している。

また、「ヘスティア華城」では、商店街や地域包括センターも参加して月1回の運営会議を開催しており、そこで商店街との関係などの問題も協議されている。アーケードは、午前11時から通行止めとなるため、「ヘスティア華城」の利用者の運動の場ともなる。また、祭り際には、「ヘスティア華城」のサービス利用者に御幣折りを依頼することにより参加意識を持ってもらうことができるなど、互いにメリットを感じている。

「ヘスティア華城」の外観



(2) 地域包括センター

防府市は、平成21年4月、同商店街の家具店駐車場の2階に「防府東地域包括支援センター」をオープンさせた。防府市は、地域ごとに4つの地域包括支援センターを整備しており、同センターは、東地域（松崎、牟礼、富海）のセンターとして松崎に整備されたものである。地域包括支援センターは、自立生活支援のための介護保険サービスの利用調整、介護予防の支援、虐待などからの権利の保護、介護・健康福祉・医療や生活に関する様々な相談などを行っており、常に数十名が働き職員の昼食や買い物はできるだけ商店街を活用するようにしている。

同商店街に地域包括センターが整備されたのは、そもそも松崎が東地域の中心であることに加え、防府市の商工振興課や観光振興課は同商店街入口の旧山口銀行の建物「天神ピア」にあるなど、防府市のサービスの現場に近い場所に組織を配置するといった方針があった。また、ヘスティア華城のオープンや同商店街の理事長の働きかけもあった。

「防府東地域包括支援センター」の外観



(3) 子育てサロン

同商店街の一角に、平成 21 年 11 月に社団法人防府市シルバー人材センターが運営する「子育てサロン」がオープンした。オープンのきっかけは、同センターは、高齢者の豊かな育児経験と能力を活かし、小さな子供を持つ母親の支援と天満宮参道の賑わいを創出しようとして、上天神「おいでませ」を運営しており、そのノウハウを基にさらに発展させようとしたことにある。同サロンでは、折り紙、絵本の読み聞かせ、お絵かき、のんびりティータイムというサービスを提供している。営業時間は、毎週月曜から金曜までの 10 時から 16 時で、おやつ代 100 円を参加費として徴収している。

5. 取り組みによる成果

(1) 成果

「人にやさしい商店街」に向けての様々な取り組みは、組合員に対しては、商店街として高齢化に対応していくといった活性化の方向付けに対する気づきを与えている。

一方、外部に対しては、「ヘスティア華城」が小規模多機能型居住介護といった今までにはなかった新しい介護サービスを、商店街内で行っていることで、新聞報道等を通じて情報発信され、視察者も多い。また、サービス利用者が商店街を散歩したり、祭りを見たりすることによって、商店街との一体化が進んでいる。ただし、同商店街の理事長は商店街の売り上げには直接的に結びついていない。

また、東部地域包括支援センターは、必要なものは商店街で調達するなど、商店街の売り上げに結びついている。

(2) ポイントや工夫

このような成果をもたらしたポイントや取り組み上の工夫として、以下の点をあげることができる。

- ・ 生き残りの道を探ろうとしていた平成 17 年頃に、商店街の性格づけについて、「やさしい街づくり」を目指す方向を見出し、社会福祉法人華世会が、街なかで介護適地を探して際、「やさしい街づくり」を進めようとしていた同商店街の理事長と出会い、開設に向けての活動が始まった。
- ・ 同商店街の理事長は、商店街が地域に果たす役割はモノを売るだけではなく、様々なサービスを通じて情報発信して新しいコミュニティをつくることが必要と考えており、そのためには商店街は、元気であることが大事で街の賑わいに寄与することが大事と考えている。ただし、「売れる」ことが基本であることは間違いなく、組合は情報発信して人を集める仕組みをつくっている。
- ・ 「ヘスティア華城」では、商店街や地域包括センターも参加して月 1 回の運営会議を開催しており、そこで商店街との関係などの問題も協議されている。
- ・ 同商店街に地域包括センターが整備されたのは、そもそも松崎が東地域の中心であることに加え、防府市の商工振興課や観光振興課が同商店街入口の旧山口銀行の建物「天神ピア」にあるなど、防府市のサービスの現場に近い場所に組織を配置するといった方針があった。

6. 今後の課題と展望

前述のように、同商店街は「人にやさしい商店街」づくりに向けて様々な取り組みを行い、組合員の意識の変化、外部への情報発信といった成果がある一方で、商店街を構成する個店の後継者づくりが課題となっている。

後継者が少ないのは、現代の若者は皆、外に出てしまっているため、うまく引き継いでいける店舗では、20～30 歳代の経営者が商店街の牽引力になれる可能性を持っている。その意味で、チャレンジショップで起業する者に期待している。平成 22 年、8 月 1 日にも若者がカフェをオープンさせており、そうした力を如何に活用していくかが課題である。

ただし、そうした若者が組合に対するメリットを感じてもらうため、商店街としては、人を集めるための事業を行いたい、会員収入が減っており誰がそれをカバーするのかといった問題や、人を集めるのは組合が行っても、それを商売に結びつける個店経営者の工夫が足りないといった問題もある。同商店街は、集客イベントに力を入れており、毎年、フリーマーケットも行っているが、理事長は、組合員のなかには会場を貸すという感覚を持ち、止めたほうがよいと考える人もいるという。また、自ら出店すれば、儲かるのにそのチャンスを潰しており、行事の乗じて売って楽しもうという考えが足りない指摘している。

ただ、リサイクルショップの「たんぼぼ」は、平成 14 年から 16 年までの空き店舗対策

事業で出店したが、受託販売を行っており、1ヶ月のうち営業しているのは2週間のみで売り上げを伸ばしているなど、ユニークな経営をしている店舗もある。

また、イベントのなかでも、県立防府商業高校の文化祭「天神まちかどフェスタ」は、毎年、同商店街と駅前再開発施設「ルルサス防府」を会場とし、全生徒約480人が参加している。平成22年は6回目で、この発端は、生徒の研究論文のなかで、調査を通じて市民が生活していくうえで商店街は身近な存在であることに気づき、それが衰退していくことは大きな問題であると考えた。さらに、課題を解決し街の活性化に貢献することが、自身の責務であるといった意識が芽生えたことである。最近では、同商店街をビジネス研究の場として、販売の研究を行っている。

フェスタは、クラス単位で模擬店を出店する販売実習イベントで、各クラスで企画した商品の仕入れから販売までを行う他、平成20年からは、地域の商品を扱う店舗を出店し、店主や保護者の指導を受けながら販売のノウハウを学ぶ「臨時店舗」の出店も始めた。各クラスの販売は、クラスマッチ形式になっており、商工会議所や商店街の代表を審査員とし、来場者のアンケート結果と合わせ、最優秀である「フェスタ大賞」をはじめ、様々な賞を決定するなど、工夫が凝らされている。こうした高校生の活動が商店街の活性化に結びついていくことが期待されている。

若手経営者の飲食店

